

学校教育目標	・自ら学び進んで働く生徒 ・心身ともに健康な生徒 ・自他を尊重して協調性を発揮する生徒 ・社会に対する責任を自覚して実践する生徒			目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	学校像：「皆が幸せを感じながら、共に成長できる学校」 生徒像：・主体的に学び、自分目標に向かって努力する生徒・思いやりの心と健康な身体をもった生徒 ・互いに協力し合い、豊かな人間関係が築ける生徒・当たり前が当たり前でできる生徒 教師像：・生徒、保護者、地域社会、同僚と喜びや幸せを共有することができる教師 ・使命感を持ち、心霊される言動、行動と組織的な対応ができる教師 ・主体的に研修と日々の実践を行い、学び続けることができる教員
前年度までの本校の現状	成果	<成果> ①全教員が年1回以上、ICT活用による授業実践を行えた。 ②インクルーシブ教育として行事や授業で交流を行えた。			課題 <課題> ①タブレット端末を活用した授業等のスキルアップ ②不登校生徒に対する対策 ③働き方改革の推進

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・業者による放課後補習教室の参加率を上げる ・TGGの活用やALTと連携した英語力の向上	保護者・生徒のアンケートの肯定的な評価が85%	C	B	C	・前期は放課後補習に参加した生徒率は70%弱であった。 ・TGGを活用し英語力の向上を図った。ALTとの連携はさらに深め、英語力の向上を図る。	B	・放課後補習の取組はよいが参加率を上げられるとよい。	B	・今年度、申し込みの生徒数が多くはなかったが、参加率は80%ほどであった。	A	・参加人数や参加率を今後も上げていけるような取り組みをしてほしい。	・募集する対象を検討し、申込者数を増やす。
	<教員研修の充実> ・教員の授業実践に向けた研修 ・ICT機器の活用	・全教員が他教員の授業を年2回以上観察 ・タブレット端末を使用し、効率よく授業を行うための研修会を行う	・生徒アンケートの肯定的な評価が80%	B	A	B	・まだ2回授業観察ができていない教員がいるので今後行う。 ・研修会を2回行い、全教員がICT機器を活用した授業を行っている。	B	・ICT機器を活用した授業の工夫をさらに進めてほしい。	A	・2回以上、他教員の授業の参観が出来た。 ・タブレット端末の活用についての研修会を行い、スキルアップを図れた。	B	・他の教員の授業観察をすることは大変良い。 ・授業研究の活性化と充実。	・授業研究の活性化と充実を図る
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・学校図書館の活用の推進	・学校図書室を活用し、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法を指導 ・年3回は学校図書館を活用し、調べ学習等を行う	・生徒アンケートの肯定的な評価が90%	C	B	C	・図書室の貸し出しの電子化により9月まで図書室の活用が出来なかった。 ・読書を通じた探究活動を各学年進めている。	C	・図書室の工事があったようなので今後の図書室の活用を期待する。	B	・学校図書室の活用をさらに推進していく。 ・3年生は「日本の文化」をテーマに探究レポート作成を行った。各学年読書科の授業をを通じ自分の考えを深め他者に伝える授業を行っている。	A	・調べ学習の取組を続け読み書き、まとめる力を育成してください。	・電子化により利用しやすくなったので、今年度よりさらに活用率を上げる。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・毎時の保健体育の授業での補強運動を単元により工夫し行う	生徒アンケートの肯定的な評価が80%	B	B	B	・単元により補強運動を工夫を行っている。	B	・今後もこの取り組みを継続してほしい。	B	・補強運動を行うことで怪我の防止につなげ、体力の向上を図る。	A	・補強運動の種類を増やし、単元にあった運動の工夫を破壊してください。	・単元に最適な補強運動の工夫
		・運動会、ロードレース大会への取組を通して持久力や意欲の向上を図る	生徒アンケートの肯定的な評価が80%	B	A	B	・運動会では生徒自身が本番や練習にも主体的に取り組んだ。	A	・運動会では生徒が意欲的に取り組む姿が見られ、活き活きと活動していた。	A	・生徒アンケートでは肯定的な93%だった。	A	・運動会を午前中だけにしている学校もあるが、是非これまで通りに実施してほしい。	・さらに意欲的に取り組めるよう計画を改善する。
教育の実現に向けた共生社会の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	・月1回の校内委員会での情報共有と手立ての確認 ・エンカレッジルーム活用の見直しと充実	・保護者アンケートの肯定的な評価が70%	B	B	B	・月1回、校内委員会を開き個々の生徒についての情報提供を行い指導している。 ・エンカレッジルームの運営の見直しを行った。	B	・支援の必要な生徒に対する取り組みを今後も推進し、居場所づくりを行ってほしい。	B	・月1回の校内委員会で状況共有をし生徒の居場所づくりの拡充を進めている。	A	・個別最適な指導と居場所づくりのために今後も取り組んでほしい。	・エンカレッジルーム運用について改善を図っていく。
	<インクルーシブ教育の推進> ・特別支援教育の理解啓発と授業における工夫 ・交流及び共同学習の実施・充実	・交流する場面（給食や行事など）の充実 ・講演会の実施	・交流給食 年間10回 ・交流授業、行事 年間20回	B	A	B	・1学期に交流給食10回、及び交流授業を行った。運動会でも練習から本番も共同学習を実施した。	B	・インクルーシブ教育を推進しているので、行事など様々なところで交流を行い、共に教育活動ができるとよい。	A	・目標数値よりも多くの回数交流給食、講習授業を行った。	A	・地域公開方式の講演会の実施をしてほしい。	・インクルーシブ教育の取り組み計画の推進
不登校・充い実め対応の	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hupaer-QUの活用	・生活指導部会や校内委員会での情報共有と手立ての確認 ・居場所づくりの拡充と推進、公的機関との連携 ・校内別室指導支援員の活用 ・hupaer-QUの実施年2回	・不登校生徒を10%減らす	B	B	B	・エンカレッジルームの運用の見直しを行い、校内別室指導支援員を活用しながら居場所づくりを推進している。 ・昨年度より不登校生徒は減少している。	B	・9月から校内別室指導支援員を活用し、不登校の生徒たちの居場所づくりを行っているので学校に来ていない生徒の活用が増えていくとよい。	B	・「居場所づくり」を推進を行い、エンカレッジルームから教室復帰している生徒も出てきた。	B	・いじめに対ししっかりとした対策をお願いします。	・校内委員会やいじめ防止委員会での取り組みの見直し。
	<健全育成に向けた取組の強化> ・いじめの未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・「SNS家庭ルール」等の徹底 ・SCによる面談の充実	・生徒アンケート等でのいじめを認知した場合、1ヶ月以内の解決を目指す	B	A	B	・生徒アンケート等でのいじめを認知した際、直ちに聞き取りを行い、対処している。	B	・今後もいじめへの早期の対応を丁寧に行っていてほしい。	A	・生活指導部と中心にいじめにたいして早期対応を図ることができた。 ・セーフティ教室等を活用し情報モラル指導を行っている。	A	・今後ともSNS利用の仕方に向けた指導をしてほしい。 ・家庭のルールの確認をしてはどうか。	・校内委員会やいじめ防止委員会での取り組みの見直しを図る。
学校（園）の地域社会に開かれたの実現	<自校の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの充実等 ・学校公開の実施・充実	・毎日1回以上内容の更新 ・行事等の発信	・保護者アンケートの肯定的な評価が70%	B	B	B	・毎日更新ができていないので、今後は行っていく。	B	・ホームページを見る方も多くいるので、近況の情報や報告を行ってけるとよい。	B	・中間同様に毎日の更新が出来ていない。	B	・もっと学校の活動の情報発信をしてほしい。 ・以前のWebページの方が充実していたように思う。	・毎日更新し、情報の発信をしていく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・生徒・保護者アンケート、教職員アンケート、学校関係者評価の分析、工夫・改善	・学校関係者評価のAが80%	B	B	B	・学校関係者評価の内容を改善し行った。 ・他のアンケートも工夫していく。	B	・常に学校を振り返った取り組みをしていると感じる。	B	・生徒・保護者アンケート、学校関係者評価の項目を改善した。	B	・アンケートのさらなる工夫・改善。	・さらに改善を図り、さらにわかりやすく、評価してもらえるよう工夫・改善をする。
教育の特色のある展開	<連絡ノートの活用> ・生徒の生活を見守り、相談を受ける体制を整える	・毎日、担任が連絡ノートを回収、コメント記入	・全クラスで実施（100%）	A	A	A	・毎日担任が連絡ノートを回収しコメントを記入している。	A	・毎日の生徒とのやり取りは、大変だと思うが、健全育成には欠かせない取り組みなので今後も続けてほしい。	A	・全教員が実施できている。次年度も生徒とのやり取りを行い健全育成に活かす。	A	・担任の先生の言葉が生徒にとって一番の力の源です。	・負担軽減の見直し
	<学校における働き方改革> ・ライフ・ワーク・バランスの推進	・月1回の定時退勤日の徹底 ・部活動の方針やガイドラインに沿った活動時間・休養日の設定を推進	・1日の在校時間を11時間を目指す ・月の定時外在校時間60時間以下を目指す	C	B	B	・定時退勤日の徹底は行えている。 ・在校時間がまだ長い教員がいるので仕事の効率化を図る。	C	・教員の意識改革が必要である。仕事を効率的にできるというのは、	B	・定時退勤日についての意識は高まっているが、さらに意識改革が必要である。	B	・過度な労働は心身の負担を強いるものであり、良い結果を生まないで、バランスをとることが大事である。	・仕事の効率化、会議の持ち方の見直し